



第46回 バギオ訪問交流の旅 2025年2月8日~11日



一般財団法人比国育英会 バギオ基金 の概要

- ・フィリピンにおける日系及び一般青少年のために、育英資金を提供しその勉学を援助、日本への留学を支援すると共に併せて日比両国の親善友好を増進することを目的とする。

会長 浅田豊久

理事 安部義彦

(2750地区バギオ基金委員会委員長)



バギオについて

- マニラから北へ250キロにあるバギオ市で日系人が苦しい立場で生活している状況を目にしたフランシス会宣教師、修道女のシスター海野が1973年北ルソン比日友好協会を設立、育英事業にご尽力されたのが始まりです。
- ロータリーとの関わりは、1978年に東京城西RCの会員がバギオを訪問し、バギオRCを窓口に学費を支給したところからです。
- 1981年には、2750地区2580地区より7RCが参加、バギオ基金が設立され、以来毎年定期的に訪問団を派遣して今年で46回目になります。



山岳地帯 バギオ

主な交流・行事

- ・比国育英会バギオ基金
奨学金贈呈式・奨学生 家庭訪問
- ・シスター海野・日系人墓地の参拝
- ・奨学生との夕食交流会
- ・小学校訪問・ランドセルの寄付
- ・遠藤大使を囲んでの夕食懇親会
- ・バギオ、マニラの現地視察

奨学金贈呈式

＠シスター海野メモリアル
ホール（アボン）

Baguio Scholarship Awarding Ceremony
Filipino-Japanese Foundation of North
Luzon Inc(ABON)

バギオ高原の小高い丘の上に建つアボン会館、正式には「シスター・テレジア・海野メモリアルホール」において奨学金贈呈式に出席。この会館は現在、日系人会の様々な活動の拠点となっていることです。北ルソン比日基金の事務局長から奨学金のお礼と活動内容のご説明、淺田会長からのご挨拶、北ルソン比日基金理事長の寺岡カルロス様は淺田会長の一回り先輩、とても若々しく感謝のご挨拶をいただきました。奨学生代表、2つのバギオRC会長からの挨拶もいただきました。



日系奨学生マルティン君 家庭訪問



シスター海野・日系人墓地のお墓参り 戦没者英靈追悼碑への献花



交流夕食会



- ・ 奨学生による歌唱 「翼をください」
- ・ テーブルごとの歌披露
六本木は「世界のどこかで」を熱唱
- ・ イゴロト民族ダンス、最後に手と手





タロイ スール小学校 訪問 ランドセルの寄付













特訓した折り紙・あやとり・紙風船のお時間はありませんでした。







WELCOME
Taloy Sur Elementary School

BAGUIO FOUNDATION

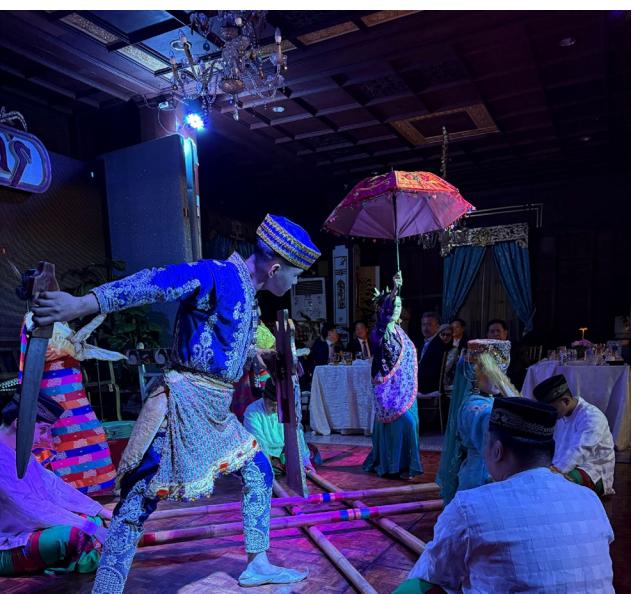
BAGUIO FOUNDATION

BAGUIO FOUNDATION

BAGUIO FOUNDATION

BAGUIO FOUNDATION

BAGUIO FOUNDATION



遠藤大使閣下を囲んでの夕食会

- 遠藤大使閣下から、バギオ基金への取組み、長年の活動への感謝、また現在の日本とフィリピンとの関係などの報告がございました。
- 現在の両国は黄金時代とのことです。また来年は日比国交正常化70周年という節目の年です。このような節目の年を活用しながら更に協力関係、交流を深めていければとのこと、積み重ねてきたロータリーへの改めての感謝のご挨拶がありました。
- 公使からは、46回の継続した訪問で顔の見える交流の大切さ、積み重ねに対しての感謝のご挨拶がありました。

バギオ訪問時のアドバイス

- ・マニラとバギオは大きな気候差があります。バギオは標高1,500mにあり、朝晩冷え込みます。ホテルには暖房がございませんので各自工夫が必要です。
- ・現地の「お水」は氷を含めて避けた方がいいです。
- ・宿泊ホテルは、シャワーのみの場合があります。客室内は少し古いですが、広くて快適に過ごせます。
- ・お食事は、油を使ったものが多いです。朝食はビュッフェです。バギオは野菜が美味しいです。
- ・マニラからバギオまで休憩を入れてバスで5~6時間の行程です。道路は高速道が主ですが、山の上り下りの約2時間は少しスリリングな感じです。
- ・全行程中でいわゆる「自由行動」のお時間はほとんどありません。





・ご参加の皆様から



- 帰国日の午前中にバスの車窓からマニラのスラム街トンド地区を見学。ゴミの山は焼却処理してなく、自然発火し煙が絶えないことからスモーキーマウンテンとよばれるようになりました。ゴミ収集所でもあるこの場所にスカベンジャーと言われる方々の生活が存在します。
- 経済成長著しいフィリピンですが、国民一人当たりのGDPは ASEANの中では下から3番目です。1日300円以下で生活している方々がいる。
- この場所に集まる人々は、地方から苦しくて都心にでてくる、限られた職業にしかつくことが出来なく、ここで生活する。
- 都会の問題ではあるが、地方での生活向上が強く望まれます。
- ただ、みんなたくましい。
- 観光バスには目も向けず、ひたすらゴミの山から生活を見いだし、その姿に人間のたくましさを感じました。